

## 令和元年度 部局長マネジメント方針

つちや ほうど  
教育長 土屋 宝土



### 私の決意

令和元年度は東大阪市の教育にとってひとつの節目となる年度になると考えています。

先ず、9年制で教育を行う義務教育学校2校の開校を含めて、全ての中学校区で小中一貫教育を本格的に実施しました。これまで、小学校6年生の中学校登校、小学校高学年における定期テストや教科担任制の導入など先行的な取り組みを行ってきましたが、本年度から東大阪市独自の教科「夢トライ科」を開始し、これらをあわせて東大阪市の小中一貫教育の全体的な進め方が整いました。

そして、二つの義務教育学校において長年の懸案であった中学校給食を開始しました。食缶方式により生徒全員が給食を食べるもので、今後配膳室の整備などを順次行い、令和4年度までに全ての中学校において給食を実施していくこととしています。

また、小学校の普通教室のエアコン整備を行い、2学期から全ての小学校の普通教室でエアコン稼働し、児童の学習環境が大きく改善されることとなります。

このように令和元年度は、いままで準備を進めてきた大きな事業が一斉に実施される年度となりましたが、今年度は二つの項目を重点項目として取り組んでいきたいと考えています。

ひとつは、「夢トライ科」を定着させ、充実させていくことです。「夢トライ科」は小学校3年から中学校3年までの7年間で三つのステージに分け、社会のあり方や、災害への備えなどの共通するテーマについて、ステージごとに学んでいくものですが、子どもたちが将来の社会でしっかりと生きていけることを目標にしており、東大阪市の小中一貫教育の柱となるよう取り組んでいきます。

もうひとつは、平成29年度に中学校の普通教室に、平成30年度に小学校の普通教室に整備した電子黒板の活用をより充実させていくことです。電子黒板は児童・生徒からも教員からも大変好評で、大半の授業で活用されていますが、これからのIT技術が教育の現場においても大きな影響をもたらすことも想定される中で、よりわかりやすい授業につながるよう、電子黒板の活用について研究し、実践していくよう取り組んでいきたいと考えています。